

区民アンケート調査の設問項目、意図（前回調査との比較）

資料 4

設問項目	前回	今回	意図
1 学ぶことの意識について			
学ぶことへの関心度	1	1	「学び」の現状と意向への回答とともに、回答パターンにより「学び」の意識・行動別分析に活用。内閣府「生涯学習に関する世論調査」（令和４年７月）と比較。
2 生涯学習について			
最近１年間の生涯学習の実施状況	2	2	分析軸で活用すると共に、計画指標として現状値を把握。
【ある】生涯学習を行う目的	2-1	3	リカレント教育（社会人の学びなおし）に関連する選択肢を追加。生涯学習型か、リカレント教育型か等のタイプを把握。
【ある】行った生涯学習の分野	2-2	4	全体からみた人気分野や、性別、年代別等からみた属性別での人気分野の差異を把握。
【ある】生涯学習を行っている場所	2-3	5	生涯学習を行う場所として、区の施設がどの程度活用されているのかを把握。
【ある】生涯学習を行っている方法	2-4	6	個人の学びとともに、地域での学び、民間での学び等、学び方の実態を把握。
【ある】オンラインでの生涯学習の実施状況	2-5	7	指標の現状値を把握。オンラインの定義を追加（オンデマンドを含む）。
【ある】生涯学習で得た知識・技能・経験の活かし方	2-6	8	「学び」を通じた地域との関わりを把握。「知人や仲間ができる」「地域や社会での活動」は指標の現状値を把握。
【ある】身に付けた知識・技能・経験を地域や社会に活かすために必要なこと	-	9	「つながりづくり」「学びの循環」「地域の学びの場」の必要性を再確認するため、身に付けた知識・技能・経験を地域や社会に活かすために必要なことを聴取。
【ない】生涯学習を行っていない理由	2-7	10	「学び」の阻害要因を把握。コロナ関連の選択肢を削除。
今後の生涯学習の意向	3	11	分析軸で活用するとともに、「学びの潜在実行層」を把握。
【行いたい】行いたい内容	3-1	12	今後の「学び」の意向が高い分野を把握。
【行いたい】得た知識・技能・経験の活かし方	3-2	13	「地域や社会での活動」への意向に着目し、「学び」を通じた地域との関わり意向を把握。
3 普段の生活について			
普段の生活満足度 ①心身ともに健やかな生活を送っている ②自分らしく生きている ③充実した生活を送っている ④住んでいる地域に愛着を感じる ⑤孤立感や孤独感がない	4	14	心身ともに健やかに生活、自分らしく、充実した生活等から区民のウェルビーイングを把握すると共に、「学び」の実行層と非実行層による差異を把握。 選択肢について、肯定的か、否定的かのどちらかにつけていただきたいという観点から、５段階評価から４段階評価へ変更。
4 大田区の生涯学習施策・事業について			
大田区の主な生涯学習施策・事業の認知・参加状況	5	15、16	主な生涯学習施策・事業がどの程度浸透しているかを把握。事業と選択肢を変更。
参加につながるきっかけ・情報	-	17	「知っているが、参加したことがない」回答者に参加につながるきっかけを聴取。
大田区の主な生涯学習事業の参加意向	6	-	上記設問を追加する一方、重要度が低い項目は回答負担軽減の観点から削除。
大田区の「学び（生涯学習）」の環境への評価 ①いつでも学びたいときに学びたいことが学べる ②多世代交流につながる学びの機会が充実している ③学んだことを活かす機会が充実している ④学びに関する情報がわかりやすく提供されている ⑤学びや活動を充実させる施設が整っている	7	18	大田区の「学び（生涯学習）」の環境を、「多世代交流」「活動の場」「わかりやすい情報発信」等の視点からの評価を把握し、区内の学びの環境での充実ポイントを把握。
生涯学習をする上で重要な区施設	8	19	学びの場としての公共施設の重要度を把握するために選択肢を再編。
生涯学習施設に必要な機能・スペース	9	20	「地域の学びの場のあり方検討報告書」（令和７年３月）を参考に選択肢を再編。学びの拠点にどのような機能・スペースが重視されるかを区民目線で把握。
区が生涯学習を推進することによるまちへの効果	10	21	前回調査との比較による意識変化、区の生涯学習施策における重視点等を把握。
区において生涯学習を盛んにするための重視点	11	22	
大田区で自主的に学ぶことや学んだことを活かす場・機会などについての自由意見	12	23	
5 回答者情報			
性別、年齢、職業、世帯類型、配偶者有無、同居家族、居住地区	-	-	回答者のサンプル構成の確認、基本クロス集計軸としての活用、意識・行動面での層別分析に際してのプロフィール確認等。性別、職業は選択肢を再編。

社会教育関係団体アンケート調査の設問項目、意図（前回調査との比較）

設問項目	前回	今回	意図
1 貴団体全般について			
活動年数、会員数、会員の平均年代、活動地域、主な収入源	-	1	基本クロス集計軸としての活用、区内の社会教育関係団体の特徴を把握。広報誌の発行有無を追加。
コロナによる活動上の影響について			
コロナ禍での活動状況	+	-	コロナ禍での活動状況の代わりに、後段でコロナ前後の活動の変化を把握することから削除。
新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと	-	-	
2 貴団体の活動内容について			
団体の活動目的	3	2	生涯学習支援型、リカレント教育支援型、地域での「学び」の支援型等のタイプを把握。
団体の活動場所	4	3	活動場所が区内の特定場所・エリア（地域密着型）か、区外を含めた広範囲型かを把握。
地域の他団体との交流状況	5	4	地域で「学び」を支える団体の横のつながり状況を把握。
【ある】地域の他団体との交流内容	5	5	交流・連携の内容を把握。以下、追加設問に合わせ、サブ設問形式に変更。
【ある】交流・連携によるよい効果	-	6	交流・連携すること（地域での「つながりづくり」を深化すること）による団体活動上の優位点を把握。
【ない】交流・連携をしない理由	-	7	交流・連携の阻害要因を把握。
新型コロナウイルス感染症を契機とした活動上の変化	-	8	前回調査のコロナ禍での活動状況の把握から、コロナ前後での活動の変化（プラス・マイナス面ともに）を把握へ変更。
今後の活動上の問題点	6	9	会員高齢化、後継者等、特に持続可能性に着目し把握。
新会員獲得への考え方	7	10	
今後の地域活動の意向	8	11	どの程度地域との関わりを持ちたいかを把握。
3 大田区の生涯学習施策・事業について			
大田区の主な生涯学習施策・事業の認知・参加状況	9	12・13	生涯学習施策・事業がどの程度浸透しているのかを把握。事業と選択肢を変更。
講座などへの参加につながる情報やきっかけ	-	14	区民アンケート調査と同様、「知っているが、参加したことがない」回答者に参加につながる情報やきっかけを聴取。
生涯学習施策・事業への参加意向	10	-	区民アンケート調査にあわせて削除。
区において生涯学習を盛んにするための重視点	11	15	区民アンケート調査結果との比較による差異を把握。
生涯学習施設に必要な機能・スペース	12	16	区民アンケート調査と同様に選択肢を修正。
生涯学習を進めていくために必要な情報	13	17	団体活動を円滑に進めるために必要とされる情報を把握。

※前回調査では、【聞き取り調査への御協力をお願い】というスペースを設けて、ヒアリング調査への協力依頼。今回は既に調査団体の目星がついているので削除。